ウメモト インフォメーション

２０２４年　７　月　５　日　　担当　瀬谷

日経平均、欧州株高が追い風

5日の東京株式市場で日経平均株価は6日続伸し、連日で史上最高値を更新する可能性が高い。4日は欧州の主要な株価指数が総じて上昇し、海外の投資家心理が一段と強気に傾くなかで東京市場でも買いが先行するだろう。半面、日本株はこのところ需給主導で一方的な上昇を続けており、今週は前日までに1330円（3.36%）上昇している。週末を控えて利益確定の売りも出やすく、下落に転じる可能性もある。日経平均は前日終値（4万0913円）を100円ほど上回る4万1000円が上値のメドになる。

4日の欧州株式市場でドイツ株価指数（DAX）は前日比0.41%高、仏CAC40は0.83%高とそれぞれ続伸した。フランスなどの財政問題を巡る過度な懸念が足元で和らいでいる。同日の米株式市場は独立記念日の祝日で休場だったが、欧州株高は海外勢の日本株買いを継続させる公算が大きい。

5日早朝の大阪取引所の夜間取引で日経平均先物は上昇し、9月物は前日の清算値に比べ20円高い4万0910円で終えた。5日早朝の外国為替市場で円相場は1ドル=161円20銭台と前日夕時点とほぼ同水準で推移しており、円安基調も投機筋による日経平均先物への買い意欲を引き続き強めるだろう。

前日の株式市場では日経平均と東証株価指数（TOPIX）は5日続伸し、ともに史上最高値を更新した。ソフトバンクグループ（SBG）が24年ぶりに上場来高値を更新したほか、トヨタ自動車や三井住友フィナンシャルグループなど時価総額の大きい大型のバリュー（割安）株には引き続き買いが入った。

日本取引所グループが4日発表した6月第4週（24～28日）の投資部門別売買動向では海外投資家が現物と株価指数先物の合計で約5900億円の買い越しだった。現物では6週ぶりに買い越しに転じるなど、足元の円安進行でドルなど自国通貨ベースでみた日本株の割安感が強まり、買いが向かった可能性が指摘されている。

個別ではホンダに注目だ。4日に東京海上日動火災保険など複数の金融機関が7月中に保有するホンダ株を売り出すと発表した。売り出し金額は4日終値を基準にすると5000億円規模になる。金融機関を中心に、資本効率の向上を目的として政策保有株を縮減させる動きが活発化しているが、きょうのホンダ株には需給悪化を意識した売りが先行しそうだ。

国内では総務省が5月の家計調査を発表する。安川電が3～5月期決算を発表する。年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）が23年度の運用状況を公表する。米国では6月の雇用統計が発表される。

引用記事　　**日経新聞**

ウメモト インフォメーション

２０２４年　７　月　５　日　　担当　瀬谷

原油が小反落　金は最高値

4日の国内商品先物市場で、原油は小幅ながら3日ぶりに反落した。米国で原油需給の引き締まりが意識され、3日のニューヨーク原油先物相場が上昇した流れを受けて、朝方は買いが先行した。もっとも、4日の東京外国為替市場で円安・ドル高の進行が一服し、円建てで取引される国内原油先物の割安感が薄れるとの見方が相場の上値を抑えた。4日の米国は独立記念日の祝日で休場となる。国内市場で積極的な売買は見送られ、利益確定目的の売りも出やすかった。

金は3日続伸した。同日未明の夜間取引で1万2297円をつけ、中心限月としての最高値を更新した。市場予想と比べて低調な米経済指標の発表が3日に相次ぎ、米連邦準備理事会（FRB）の利下げ観測が改めて広がった。米長期金利の低下で、金利のつかない実物資産である金先物の投資妙味が増すとの見方が相場を押し上げた。

以下は主な商品（中心限月）の清算値。

・金	1万2250円	75円高
・白金	5215円	35円高
・原油	8万2640円	30円安
・ゴム（RSS）	329.9円	1.5円安
・トウモロコシ	3万8900円	120円安

※単位は金と白金が1グラム、原油が1キロリットル、ゴムが1キログラム、トウモロコシが1トン。原油は東京商品取引所、それ以外は大阪取引所での取引。

引用記事　**日経新聞**

ウメモト インフォメーション

２０２４年　７　月　５　日　　担当　瀬谷

高硫黄C重油、10%上げ決着　4～6月

ENEOSが大口需要家と進めていた4～6月期の高硫黄C重油の価格交渉が決着した。産業用ボイラー燃料として使う高硫黄C重油（硫黄分3.0%）は1キロリットル9万1520円と、1～3月期比で8250円（10%）上昇した。

引き上げは2四半期ぶりだ。原油の国際相場の上昇と、円安の進行を反映した。

電力会社が発電用燃料として使う低硫黄C重油（硫黄分0.3%）は同7140円（7%）高い10万4640円となった。

引用記事　**日経新聞**

ウメモト インフォメーション

２０２４年　７　月　５　日　　担当　瀬谷

パーム油・ヤシ油卸値上昇　国際相場高止まりや円安で

揚げ油や製菓用クリーム、洗剤原料などに使うパーム油とヤシ油の7月の国内卸値が2カ月ぶりに上がった。値上がり幅はパーム油が前月比1.4%高、ヤシ油が同1.3%高。国際相場の高止まりや円安を反映した。

製油会社が加工油脂会社や製麺会社などに売る価格は、パーム油が1キログラム279～289円と、中心値で前月比4円高い。ヤシ油も同484円と6円上昇した。

パーム油の国際指標となるマレーシア市場の先物価格（中心限月）は6月の平均値が1トン3900リンギ近辺と、5月の平均値に比べて0.7%程度上昇した。7月以降も上昇は続き、3日には一時1トン4100リンギ台と、4月中旬以来の高値を付けた。

マレーシアパーム油委員会（MPOB）が6月に公表した5月の粗パーム油生産量は前月比13.5%増の170万トンと23年11月以来の高水準だった。季節的な増産期が近づき、生産量は増加傾向だった。一方、需要も増えており、在庫は0.5%増にとどまった。

パーム油はバイオ燃料向け需要が拡大傾向で、同じくバイオ燃料に使う大豆油や、原油相場の影響を受けやすい。原油相場は中東情勢悪化への警戒感から2カ月ぶりの高値圏にある。大豆油やパーム油の相対的な魅力が高まり、相場上昇につながった。

ヤシ油の国際指標となるロッテルダムの現物相場も高止まりが続いた。主要生産国のフィリピンでは5月のヤシ油生産量が前年比で約7%増と2カ月連続で前年を上回った。もっとも23年春から続いていたエルニーニョ現象によって生産地域の一部が干ばつの影響を受け、市場では需給逼迫懸念が続いている。

国内卸値の値上がりは円安など国際相場以外の要因も影響したとみられる。

引用記事　　**日経新聞**

ウメモト インフォメーション

２０２４年 ７ 月 ５ 日　　担当　瀬谷

キャセイパシフィック幹部、燃料不足「差し迫った懸案」

香港のキャセイパシフィック航空で北東アジア地区のトップを務めるネルソン・チン総支配人は4日、羽田空港での日本就航65周年の式典に出席し、日本各地の空港で顕在化する航空燃料不足は「差し迫った懸案だ」と記者団に語った。

ネルソン氏は燃料不足問題は「当社に限らず日本へより便を飛ばしたい多くの航空会社にとって疑いようのない懸案であることは確かだ」と話した。

キャセイでは10月からは香港―名古屋便を増便する予定がある。ネルソン氏はこうした同社の増便計画に対して「影響がないよう（燃料補給業者など）地上のハンドラーと良い関係を構築できている」と語り、今後の増便には影響はないとの認識を示した。

訪日外国人数が急回復する中で、地方空港を中心に航空燃料の十分な補給体制が取れず、海外の航空会社が新規便や増便を断念するケースが起きている。国土交通省と経済産業省は6月、官民合同の対策会議を立ち上げた。

引用記事　**毎日新聞**

ウメモト インフォメーション

２０２４年　７　月　５　日　　担当　瀬谷

鹿島道路 大阪･愛媛の工事でも契約と異なる材料使用 会社調査

道路の舗装工事を手がける企業が国道や高速道路の工事で契約と異なり使用済みのアスファルトを加工して再生した材料を使用していた問題で、「鹿島道路」が施工した大阪府と愛媛県の道路工事でも契約と異なる材料を使用していたことが会社の調査で分かりました。

「鹿島道路」はこれまで国や高速道路会社から受注した9件の舗装工事で、新品のアスファルトを使う契約だったにもかかわらず、使用済みのアスファルトを加工した「再生骨材」と呼ばれる材料を使用していたと公表しています。

その後、自治体の工事についても調査したところ、大阪府泉大津市と愛媛県東温市から請け負った市道の舗装工事でも契約と異なり「再生骨材」を使用していたと3日公表しました。

会社はこのほかの工事に問題が無かったか、引き続き調査を進めるとしています。

さらに鹿島道路は国と高速道路会社が発注した工事で、新品の材料を指定されていたにもかかわらず、19件で再生骨材が混入した材料を施工業者に納品していたことも明らかにしました。

鹿島道路は先月、外部の弁護士による調査委員会を設置し、8月末をめどに原因や再発防止策について報告をまとめるとしています。

鹿島道路は「改めてご迷惑をおかけしたすべての皆さまにおわび申し上げます」とコメントしています。

アスファルトは多くが再利用され、各地の道路で舗装に活用されていますが、新品と比べて耐久性が低くなる可能性も指摘されています。

国土交通省は一定の規模以上の舗装工事を受注した全国すべての会社で同様の事案がないか調査を進めています。

引用記事　　**NHK NEWS**